



2016年6月1日着任

岡崎 圭一

おかざき けいいち

理論・計算分子科学研究領域

理論・計算分子科学研究部門 特任准教授



2009年神戸大学大学院自然科学研究科において博士号(理学)取得後、早稲田大学、アメリカ国立衛生研究所(NIH)、マックスプランク生物物理学研究所での博士研究員を経て、2016年6月に着任しました。計算機シミュレーションを用いて、生体分子モーターやトランスポーターなどの機能ダイナミクスに取り組んでいます。所内で共同研究などできたらいいなと思っています。よろしくお願いいたします。

2016年6月1日着任

Anggi Eka Putra

生命・錯体分子科学研究領域

錯体触媒研究部門 研究員



I received Ph.D. degree from Doshisha University in 2014. Then, I worked as a graduate school assistant, a limited-term faculty position at the same university for last two years. My research was mainly focused on the environmentally friendly catalytic system so-called “borrowing hydrogen” methodology. I joined Prof. Yasuhiro Uozumi group at IMS as a postdoctoral fellow since June 2016. Now I am studying polymer-supported metal catalysis and their applications for ideal organic transformations.

アウトリーチ活動

第108回、第109回分子科学フォーラムを終えて

2016年2月15日、第108回フォーラムの講師として上杉志成先生(京都大学 物質-細胞統合システム拠点・教授)をお迎えし、「生物活性分子の新しい世界」というタイトルでご講演頂きました。生理活性を有する化合物の合成法を確立し、それらを医薬品・農薬だけでなく生物学の研究ツールとして利用することの有用性を説かれました。化合物ライブラリーからヒット化合物を探索し、それを鋳型に大きさ・形・官能基などを改良する過程は「お見事！」の一言で、化合物の新たな可能性や未来にかけ上杉先生の情熱がビシビシと伝わってきました。

2016年6月3日、第109回のフォーラムでは、米田穰先生(東京大学総合研究博物館・教授)に「化学分析で読み解く古代人の食生活」というタイトルでご講演頂きました。遺跡などから出土する人骨の同位体分析から、当事の人々(縄文時代人や弥生時代人など)の食生活だけでなく、健康状態や出身地に関する情報までもが得られることに驚かされました。同位体分析は考古学だけでなく犯罪捜査などにも利用されることがあるそうで、分子や原子に記された指紋情報としての応用可能性に改めて感心させられました。

第108回、第109回どちらのフォーラムも盛況で、講演終了後には会場から質問やコメントが多数寄せられました。なお、第110回の分子科学フォーラムでは、Spiber株式会社・取締役兼執行役の菅原潤一氏に「クモ糸から始まる素材革命」というタイトルでご講演をお願いしています(2016年9月9日開催予定)。

(秋山 修志 記)

